

仙台市×東北大学スマートシティ データ連携基盤導入によるスマートシティ推進事業

実施地域	宮城県仙台市 <small>(東北大学キャンパスを中心とした地域)</small>	実施主体	仙台市
事業概要	<p>仙台市では毎年、進学・就職・就労等をきっかけとして、約13,000人が宮城県を除く東北5県から転入している。しかし一方で、東京圏に対しては約14,000人も住民が転出してしまいう実態がある。特に東日本大震災以降、仙台市に集まってきた多様な人材が十分に定着・活躍できずに市外へ転出してしまいう例も多いのが実情である。そこで、仙台市に居住することの魅力を高めるべく、<u>東北大学キャンパスの一部を未来都市ショーケースとして設定し、東北各県の多様性を持ち合わせた住民が自由な発想をもって社会変革に挑戦する場を整備するスーパーシティ構想を立ち上げた。</u></p> <p>今回の提案はその実現に向けたデータ連携基盤導入によるスマートシティ推進の第一段階の事業となるものである。</p>		

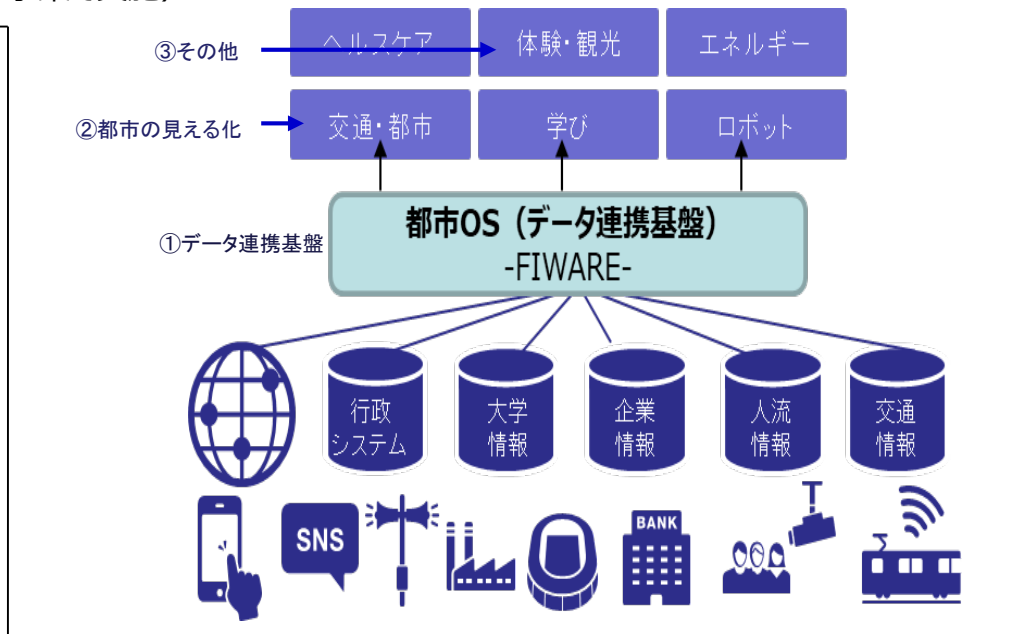
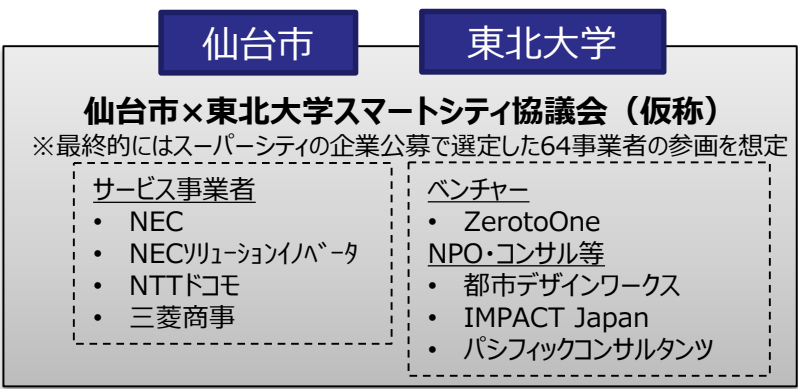
取組内容

「仙台市×東北大学スーパーシティ構想」を実現するための第一歩として、データ連携基盤（都市OS）の導入を実施する。その上で、スマートシティのファーストステップとして、市民に分かりやすい「都市の見える化」（人流や密状態を見える化し、人流変化の分析や感染症対策の注意喚起等を支援）の実現に向けたサービス提供に着手する。

- ①データ連携基盤の構築と導入
- ②都市の見える化／活動のモニタリング
- ③その他：ドローン観光等のサービスとのデータ連携の検討(他省庁事業で実施)

実施体制図

R3年9月に設立予定の「仙台市×東北大学スマートシティ協議会（仮称）」の中で、当面は下記の会員を中心に検討を実施し、構築を含めた事業を進める。



システム構成図

サービス

データ連携基盤

データ・アセット

